



発行所 磐城日日新聞社 福島県磐城市若菜51 電話代表387番 編集人 比佐不二夫



一億二千万の巨費投じ

小名浜港二万トン埠頭きよう起工式

ききに小名浜港は東洋港として港整備促進法に基く総合開発特定地区に指定され常磐地帯将来の一大商港として脚光を浴びたがいよ／＼二十四日午後一時三十分から同港三万トン埠頭で念願の一萬トン埠頭建設並港灣全設整備事業の起工式が縣主催で厳かに行われる

磐城市の夜明け

絶えざる市民の願望ここに結実



立花 磐城市長

大竹知事を始め、地元衆参議員各関係代表が参席して、待望の起工式を挙げる喜びを直前にして立花磐城市長は五万市民を代表して次のように祝意を表明した

小名浜港がいよいよ二十四日商港を目指して晴れの起工式を挙げることは誠に喜びに堪えない、願ひはながい間の必死の闘いが漸く實を結んだわけで、各関係機関はもとより、地元市民の絶えざる努力と協力は深甚の謝意

III 防犯は楽しい

家庭の光からIII 防犯標語に五君入賞

社会を明るくする運動の一環として磐城市福祉事務所で市内小、中、高の結果次の五君が入賞、優秀作として近く発表される

「入賞作」
▽防犯は楽しい家庭の光から
江名中一年小野タカ子
▽ちよつと待て自分の心に恥じないか
小名二中一年鈴木良子
▽心の隙間に犯罪の影
小名高二年A坂本 啓
▽明るい心で明るい社会
小名一六六年佐藤愛子
▽互に助けて明るい社会
小名二六六年遠藤純子



小野 県議員

小名濱商港は市民の和と協力

信じている。商港の完成が、接続工場地帯の建設と相まって東

小野県議談
大正四年から常磐地帯を大正十二年に商港から避難港、商工港に切替へその推進を願つた昭和十一年三千噸埠頭の着工が行われ十六年完成してこゝに同港は商工港の形態を整え、以来、高木通口、志賀、水野の歴代町長と現在の立花市長に至る理事者は一環した港を築きあげた

常磐開発のホープ

小名浜港の完成は東北の発展



大場 工場長

日本水産小名浜工場長 大場園雄氏 祝意を述べ、地方産業の振興と農村の豊かす役割は大きく、農村と肥料生産は密接不可分の関係にある

一萬トン埠頭工事

二カ年計画の歩み

東北の表支關を目指す同埠頭は現在三千噸級貨物船の出入港に止まり、(四日間)開かれる東北大会に参加して、郷土民謡を披露する。三十一日午後一時より湯本公民館で炭礦の練習をする



久保田 産婦人科 院長 久保田 眞一 助産婦 久保田 眞一

雪印 ビタミンA アイスクリーム 客が喜ぶ夏の飲物 喫茶 國華堂賣店

平マーケット 毎今月が一番安い 今年今月が一番安い 今年今月が一番安い

21 27 同時上映 悪魔が来りて笛を吹く 風立ちぬ

清風堂 啓川食品工業 津島製菓

